

道内集落 2割危機

機能低下 将来「消滅」241カ所 維持困難

道内の集落の2割近くに当たる710カ所が機能低下や維持困難に陥っていることが道の調査で分かった。うち、自治体が将来的に「消滅」と判断したのは241カ所に上り、10年度の国土交通省の調査と比べ39カ所も増えた。集落の危機が急速に進行していることを示しており、道は具体的な対策を急いでいる。

【円谷美晶】

■最多の後志は17

調査は11年秋から今年3月まで、道内177市町村の3757カ所を対象に実施。報告

数値把握よりも実態知るべきだ
道内の地域事情に詳しい佐藤信・北海学園大教授の話 道内の集落は隣の家まで1キ以上離れているような散居型が多く、本州の集落とは性質が異なる。支援員やリーダーの育成といった内発的な方法では、既に消滅の危機にある道内集落の状況は改善できない。地域によって自然や産業も異なるため、ひとくりに対策を考えるべ

書によると、人口100人未満は2019カ所、高齢化率50%以上は475カ所だった。山林や農地など資源の維持と保全、冠婚葬

きではない。数値的な把握以上に、意見交換などを通して細やかな生活実態を知ることが重要だ。
インターネット環境や除雪など、一人の住民の生活に寄り添った最低限の社会基盤整備は人口減少の対策として有効。過疎と過密は表裏一体の問題であり、道が主導して札幌市に集中している道庁の管理機能を地方に分散させるなど、抜本的な発想の切り替えが必要だと思っ

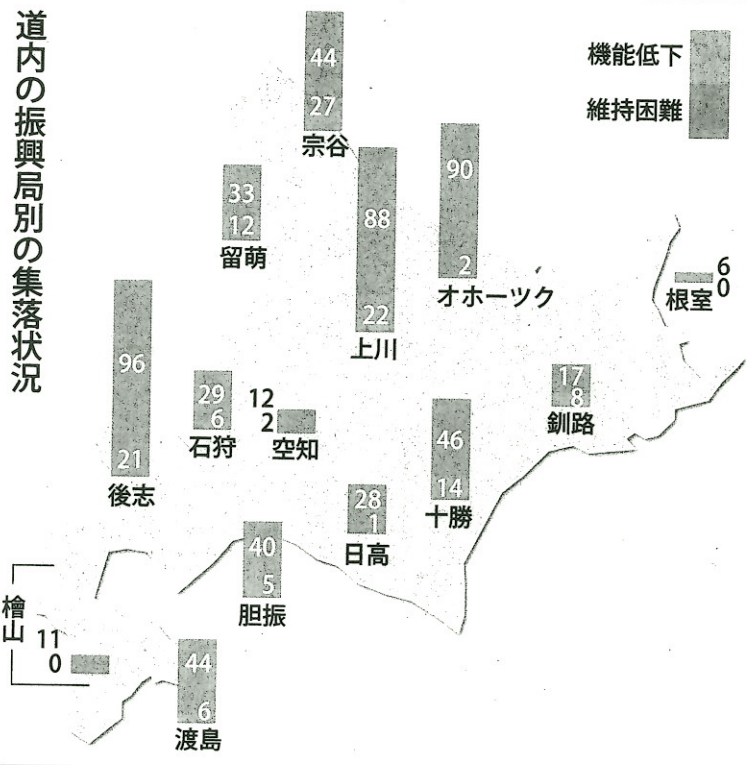
たところ「機能低下」が584カ所（全体の15.5%）、「機能維持困難」が126カ所（同3.4%）と判断された。振興局別では、▽後志117カ所▽上川110カ所▽オホーツク92カ所、この3管内

だけで約45%を占めた。機能低下などとされた集落の割合でみると、▽胆振39・4%▽留萌39・1%▽後志34・7%の順。また、「いずれ消滅」が221カ所、「10年以内に消滅」が20カ所だった。

「買い物が困難」道は調査後、特に対策が必要と考えられる集落289カ所を対象に、自治体や集落代表者にヒアリング調査を実施。集落の住民とも意見交換した。

「買いや通院の交通手段の問題に加え、▽除雪が困難▽地域の住民のコミュニケーション不足▽働く場、仕事

がない」など、住民生活にかかわる課題が多く指摘された。対策としては、交通手段確保や新規就業支援などの要望が上がった。早期に有効な対策に取り組むため、道は昨年9月に有識者による「道集落対策促進会議」を設置。今月17日に開かれた第4回会議では、「求められる対策は地域ごとに異なる」として、▽既存の集落の維持存続▽冬期間の集住、集落再編などによる新たな集落作り▽の二つの方向性が打ち出された。今秋までに最終報告書をまとめる予定で、石橋秀規・道地域振興監は「緊急かつ重要な問題だ。具体的な対策を打つ年にしたい」と話している。



道内の振興局別の集落状況